

# 審 議 会 会 議 録 要 旨

会 議 名 称 第2回伊那市総合計画審議会  
日 時 平成30年6月7日(木) 午後1時30分 から 3時50分 まで  
場 所 伊那市役所 501・502 会議室  
出 席 者 委員 21 名(欠席者 7 名)、事務局

## 【議事要旨】

### 協議事項

- (1)基本構想について
- (2)その他

## ○主な意見・質疑

### (1)基本構想について

#### I 序論 第2章 本市の姿

(委員)

「首都圏及び中京圏から等距離にあり、位置的に『恵まれている』』とあるが、外から見た伊那市は、位置的に「恵まれている」とは言い難いのではないか。

(事務局)

意見をふまえ、客観的事実について述べる表現へ修正する。

#### I 序論 第3章 計画策定の背景

(委員)

少子高齢化の一番の問題は、生産年齢人口が減少することであるため、そのことを第1項で言及すべき。

(事務局)

意見をふまえ、該当箇所を修正する。

(委員)

農林業について、放置林や遊休農地の改善を図ることも重要であり、背景として言及すべき。

(事務局)

時代の潮流として、客観的事実に基づき修正する。ご意見の趣旨については、基本構想の施策の大綱や基本計画において位置付けていく予定である。

(委員)

2027 年国民体育大会が長野県で開催の予定である。スポーツの振興についても計画への位置付けが必要。

(事務局)

ご意見の趣旨については、基本構想の施策の大綱や基本計画において位置付けていく予定

である。

(委員)

農事組合法人の経営陣の高齢化が進み、新たな担い手の確保が課題。「発展」よりも「維持」が現実的である。

(事務局)

国県施策との整合もあるため、方針としては「発展」という表現を用いることでご理解いただきたい。ご意見の趣旨・考え方については、基本計画へ反映していく。

(委員)

第4次産業革命等により、電子部品産業など地域の既存産業の需要も伸びてくると予想されるため、企業にとってチャンスと捉えたい。既存産業の活性化という視点も加えるべき。

(事務局)

意見をふまえ、該当箇所を修正する。

(委員)

実際に崩落が起きた箇所もあり、社会資本の老朽化は深刻な問題。優先順位を付けて、実効性のある対応が必要である。より具体的に言及してはどうか。

(事務局)

意見の内容については、基本計画及び個別計画において位置付けていく。

(委員)

高速道路のナンバリングは、表現として必要か疑問。

(事務局)

訪日外国人観光客の増加などに伴い、利用者に分かりやすい道案内のため、2017 年から実施されているものあり、原案のとおり表示する。

(委員)

「個人の意識や価値観は、これまでの経済的・物質的な豊かさから、精神的なやすらぎや生活の質を重視する方向へと変化しています。」とあるが、個人的にはそう感じていない。

(事務局)

内閣府の「国民生活に関する世論調査」に基づく記述であり、時代の潮流であると考えられるため、原案のとおりとする。

(委員)

国道 153 号伊那バイパス、伊駒アルプスロードの整備も地域にとって大きな潮流である。

(事務局)

ご意見のとおり、幅広い分野への効果が期待される事業であるため、基本構想及び基本計画における施策展開の背景として位置付けていく予定である。

(委員)

まちづくりアンケートの結果にある「住みたくない」理由は、周りでよく聞く意見である。少数意見だからといって切り捨てないでほしい。

(事務局)

要な意見として、基本計画における各施策の展開方針へ反映していく。

(委員)

「近隣自治体との役割分担や連携」も大事であるが、「地域のリーダー」という視点も入れてはどうか。

(事務局)

意見をふまえ、該当箇所を修正する。

## II 基本構想 第1章 基本理念

(委員)

「協働」にはいろいろな意味があるので、注釈があったほうがよい。

(事務局)

冊子の巻末に用語解説を掲載する。

## II 基本構想 第2章 将来像

(委員)

- 将来像・キャッチフレーズは重要。例えば、南信州＝飯田が定着している。「2つのアルプス～」もよいが、言葉の意味合いを表現したほうがよい。「伊那平」を構成する地域を代表するのであれば、誇りをもって「伊那平」をキャッチフレーズに使ってよいのではないか。
- 現在の将来像「二つのアルプス～」は表現が硬い。伊那市らしく、みんなが愛着を持てる表現となるようにすべき。
- 基本目標5番目「心豊かな人を育み、歴史と文化を未来へつなぐまちづくり」の目的は「心豊かな人を育む」ことであるので、文章の前後を入れ替えたほうがよい。
- 基本目標6番目「快適で潤いのある安全なまちづくり」の「潤い」が抽象的で何を指すのか分からない。誰もが共通のイメージを持てる表現とすべき。

(事務局)

今回の会議で将来像の事務局案を提案する。

## II 基本構想 第3章 施策の大綱

### 【第1節 市民が主役の協働のまちづくり】

(委員)

- 協働の担い手は、市民、企業、地域、行政などがあり、主体が漠然としているので、

それぞれの役割分担や権利と責任の部分を整理すべき。

- 地域の中では役職を頼んでも断られ、また、引き受けても嫌々やっている実態がある。「市民が主役」といっても程遠いと感じる。
- 「声を聞く」だけでは推進力を持たない。行政が市民の声をきちんと捉え、イニシアチブをとって、けん引していくようなダイナミックさが求められる。

(事務局)

意見をふまえ、該当箇所を修正する。

## 【第2節 自然と調和した環境にやさしいまちづくり】

(委員)

CO2の削減は、現実的な数値目標とすべき。

(事務局)

基本計画の中で具体的な数値目標となる「まちづくり指標」を設定する。

## 【第3節 子育てを支え、だれもが健康で安心して暮らせるまちづくり】

(委員)

伊那市が日本一長寿で健康なまちになることを願う。市民全員がスポーツに関わり、健康でいられるように、地域や団体への行政支援の充実を求める。

(事務局)

意見の内容については、基本計画において位置付けていく。

## 【第4節 地域の個性と魅力が輝くにぎわいと活力のあるまちづくり】

(委員)

「活力」という言葉が抽象的で、具体的に何を指すのか分かり難い。

(事務局)

「活力」が指し示すまちの姿としては、「いきいきとした」、「勢いがある」、「元気いっぱい」、「活気がある」などの状態を表現している。

ここでは、様々なプラス方向の状態を広義にとらえていただきたい。

(委員)

外から見た伊那市の魅力という視点も重要である。

(事務局)

計画及び施策展開に生かしていきたい。

(委員)

- 「ドローン」や「自動運転」など、先進的に取り組んでいることをキーワードとして加えてはどうか。

- 新産業の創出や新しい工場の誘致だけでなく、既存産業の振興や優遇についても言及すべき。
- 若者のUターン就職だけでなく、地元の求人難と都会の求職者情報を上手くマッチングできる仕組みづくりが必要である。

(事務局)

意見をふまえ、該当箇所を修正する。

(委員)

「交流人口の増加」が「定住人口の増加」につながるため、この二つは連携した一体のものとして取り扱ってほしい。

(事務局)

ご意見のとおりであり、部署を横断した施策の展開が必要であると認識している。

(委員)

「二つのアルプス」、「天下第一の桜」は、すでに定着している言葉であるが、いろいろと課題もある。今回のキャッチフレーズは、これによらず再考すべき。また、文章についても再検討いただきたい。

(事務局)

担当部局と調整を行う。

## 【第5節 心豊かな人を育み、歴史と文化を未来へつなぐまちづくり】

(委員)

「はじめに子どもありきの教育理念」を方針として追加すべき。

(事務局)

意見をふまえ、該当箇所を修正する。

(委員)

- 教育現場の教員のやる気を引き出させるような教育実践を計画・施策に入れるべき。
- 地域外への高校生の流出が課題であるため、魅力ある高校教育の視点も重要である。

(事務局)

ご意見の趣旨は、基本計画へ反映していきたい。

## 【第6節 快適で潤いのある安全なまちづくり】

(委員)

コンパクトシティの考え方は、郊外に暮らす者にとって不安を感じる政策であり、推進しない施策展開を望む。

(事務局)

現時点では、コンパクトシティ政策について積極的に取り組むことはしていない。インフラ投資や公共交通についても、維持・存続していく方向で進めている。

## II 基本構想 第4章 土地利用構想

(委員)

- 相続できない塩漬け土地の問題が、農地を集積できない課題となっている。相続未登記農地対策の法制化に期待している。土地所有者の義務についても、積極的に訴えていく必要がある。
- 工業用地の拡張など、農地法による規制の弾力運用も必要である。
- 教育の中で小さな頃から農業に親しむことを教えることも重要である。

(事務局)

ご意見の趣旨は、基本計画及び土地利用計画へ反映していきたい。

### (2)その他

(委員)

伊那市を訪れる外国人観光客は多い。一つのアピールポイントとして、インバウンドの増加についてもどこかで触れておくべき。

(事務局)

「時代の潮流」として位置付ける方向で検討する。

以上